

群馬つつじ会だより

発行 平成28年3月31日
群馬県精神障害者家族会
連合会 (群馬つつじ会)
〒371-0843
群馬県前橋市新前橋町13-12
群馬県社会福祉総合センター7F
TEL 027-289-9647
FAX 027-289-9648
E-mail gunmatutuji_k@ybb.ne.jp

第26号



臨時総会開催～三役役員の改選の報告～



松岡、吉邑、岡野

会長 吉邑 玲子

今年度も半ばの10月5日、現三役の体調不良等で、臨時総会開催となりました。“若返り”と常任理事の3人がそのまま三役に入り、会長吉邑玲子（前橋あざみ会）、副会長岡野行男（沼田あおぞら会）、副会長松岡やよい（渋川いずみ会）が任命されました。

新役員は年度途中でもあり、事務局員と共に過去の資料を紐解き、格闘しております。

まずは、現状把握のため、理事会でのアンケート実施、単会の総会資料の収集を始めました。意外に、問題点ばかりでなく、単会の輪の拡大、支援者を会員に取り組み努力もみえてきました。まずは、地固めが必要と考え、賛助会員のお願ひも始めました。

来年度は、5月に群馬つつじ会30周年記念総会、9月に関東ブロックの当番県を控え、関連機関のご協力を仰ぎながら進めるべく準備中です。

会員の皆さまと少しずつでも前進出来ればと、願っております。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。



『みんなねっと』関東ブロック大会 IN 東京 ～1人だって生きられる～

2015年10月19日（金）東京大会は、有楽町朝日ホールに於いて、関東地区から約700人以上参加して開催されました。群馬つつじ会からは、バスを仕立て47名が参加しました。

午前は、クッキングハウス理事長松浦幸子さんによる「精神障害者と家族が安心して地域で暮らすために必要な支援とは～28年の実践から～」と題する講演でした。

午後は、シンポジウムで、地域活動支援センターや医療従事者、そして当事者のお話には参加者の多くが感動をしたと思います。来年度は、群馬県が当番県です。会員の皆さまのご協力を期待しております。

（副会長 岡野行男）

作業所・家族会合同研修会

所・家族会合同研



お話をする山脈の笹澤理事長

= 精神障害者の働く場への期待 =

午前は、笹澤理事長より当事者支援についてのご見識及び就労支援とグループホーム事業紹介がありました。運営の考え方は、住まいと働く場所の一体化、個人にあった仕事を、年金+工賃で生活可能な工賃追求であり、その事業の維持発展をと、その意欲に深謝致します。また、自立への希望をもち続けるよう示唆しているようにも聞こえました。

午後は、障害者雇用についてのお話でした。県内企業の精神障害者雇用数は少ないが、26年は前年比25%増でした。そして企業はSSTを学び勉強会を設けて、障害の特徴を知り、コミュニケーション技能を研く努力をしています。また、仕事や勤務時間に配慮し、ジョブコーチの活用や悩み・希望の把握と対応を図っていて、働きやすい環境づくりに対し、誠にありがたく思います。

就労支援事業を含め、精神障害者の働く場の質と量の拡充が期待できるようになってきたと思いました。同時に、利用する側の自立心を醸成していく支援の大切さも感じました。

(のびる会 高橋 健二)

= 偏見をなくす教育の必要性 =

笹澤氏の話の中で、病気の発症年齢が私の子どもと同じなのに、時期は11年前でした。私の病気に対する正しい知識が無く、治療面からは親の考えや行動が、逆方向に作用していたと思われる点が同じです。ある医師から、「親は治療の邪魔になることがある」と聞きました。

報告での時期から25年経過したが、今も同じ事が繰り返されています。自立のためグループホームやアパートを探しても、入れる人は少ない。大きな原因は周囲及び家主の偏見です。笹澤さんの努力には本当に頭が下がる思いです。何年も続く無駄な繰り返しを少しでも減らす為に、教育の力が必要と思っているのは、私だけでしょうか。

「障害者の就労の実例 DVD 視聴」では、当事者に対する配慮が伺え、安心して見られました。「やって見せて、言ってみせて、やらせてみて、褒めてやらねば人は動かさず」は今も同じ様です。いずれも、北毛地区ではありませんが、同様な会社の出現を期待します。

(いずみ会 金子 元二)

= 感謝の気持ちを新たに…… =

笹澤さんの講演は、家族の方の大変な苦労が伝わって来て、胸を打たれました。私自身も親や、仲間に感謝していますが、洋二さんもきっとそうなんだと思いました。

特に私が記憶に残ったのは、レストランに金属バットを持って入店し、レジスターを破壊した場面です。私も金属バットを常備している時期があったので、気持ちが分かる気がしたのです。

今、私は就職に向けて体調を整えている最中ですが、周囲の理解や協力は、とても大切な事と思っています。笹澤さんのように、過去を振り返り、自分たちを見つめ直し、親としての反省をして居ることは、何より気持ちの面で応援になります。改めて、自分の親の思いを考えるきっかけを頂きました。ありがとうございました。

(前橋市活動支援センター ももの木 井上 智則)

『みんなネット』全国大会 IN 福岡 ～精神障害者が共に暮らせる地域づくり～

9月28、29日全国から2000名以上が参集し、福岡国際会議場にて開催されました。

1日目の基調講演は、「戦後70年と障害者権利条約」と題し、日本障害者フォーラム幹事会議長藤井克徳氏でした。第二次大戦においてドイツと日本の違いを話されました。ドイツでは、ナチスは約30万人の精神・知的障害者を殺害。ユダヤ人虐殺へと続き、一方、日本では戦時中の資料はほとんど残存せず、精神病院での死亡者の多くは餓死と言われていると耳を覆いたくなる話でした。それから70年、日本は、1昨年1月に世界では141番目の障害者権利条約がようやく批准されました。また、家族へのメッセージの中で、隠さない、悔やまない、決めつけない、孤立を避ける、健康第一が心に残りました。

2日目は「家族と家族会の力と役割」に参加。コンボ主催の「家族学習会」は、家族相談支援員育成と家族会活性化を目的に、その成果についての報告があり、群馬県での必要性を感じました。

(副会長 松岡やよい)

研修会～当事者との上手な関わり方について学ぶ～

平成28年1月29日（金） 参加者 74 名

午前の部：『ピア（当事者の方々）の研修内容とその成果』

午後の部：『相手のお気持ちを理解するために』

午前の部

ピアサポート6名、支援者3名の方々の発表でした。

群馬ピアサポートグループは、群馬精神障害者社会復帰協議会事務局に所属。ピアサポート専門員は同じ体験をし、克服し、体験を語り、養成講座を終了して、サポート活動が出来る人です。活動の理念に「いついかなる時も、誰も見捨てず、対等に当事者をサポートする」とあります。

十人十色です。「親の育て方が悪いのではなく、脳の病気です。本人が苦しい時、親も一緒に苦しまず、そばにいてくれば良い。親は親の人生を楽しんでほしい」ピアサポーターにとって、人を助けることが、自分を助けること

になります。

研修終えた100名の方々の今後の活躍を願い、私たち家族の当事者もピアサポーターを目指したいとの声が多くありました。



発表するピアサポーター

午後の部



特定非営利活動法人
ホールファミリーケア協会

鈴木絹英 先生

—傾聴に学ぶ—

午前に引き続き、部屋いっぱいの会員が出席の中、華や

かな鈴木絹英先生が登場されました。

「傾聴は、相手に対し、受容的態度、共感的理解を基本に」と、話術巧みな先生の講話にひき込まれました。

明るいお話の中、時に笑いを誘いながらも、鋭い人間洞察で、「病人のつらさをもっと分って上げて！自分の価値観を押し付けしないで！人の話を遮らないで！」とも。

私たちは、とかく話をする側の方が得意だが、聴くことは本当に難しい。アンケートの感想には、皆努力して聴くようにしたい、とありました。今後はロールプレーも経験したいという希望も出ていました。

今後の群馬つつじ会活動に向けての研修会

～浅見先生を囲んでの研修会と交流会～

3月4・5日 於；城山荘 参加者 18 名



参加した会員

初めての、宿泊研修では、顧問の浅見隆康先生を囲み、『精神障害者家族会活動』と題し、精神保健の歴史から家族会活動の取り組み、成果について伺いました。また、具体例から家族の在り方を考えるという20年土曜学校を主催された浅見先生の含蓄ある講話でした。

途中、「つつじ会の現状」をアンケートや単会の総会資料に基づく考察を、会長が行いました。

先生には、家族会への提言として、「専門職や当事者、ボランティアとの連携をとり、活動の幅を広げる事」と貴重なご意見を頂きました。和やかな交流もあり、翌朝の理事会では、新会員獲得の妙案や、活動について活発な意見交換を行いました。

= 家族相談会 =

家族相談会 IN 館林

10月22日、10時から館林市保健福祉事務所で開催されました。今回の相談会は、地元の精神科医師、柴田メンタルクリニック、つつじメンタルホスピタルの先生方、そしてこころの健康センター所長浅見先生、精神保健福祉士、保健師、家族会の役員の方々に対応して頂きました。

又館林、邑楽町、千代田町、大泉町、明和町の各広報紙に掲載して頂き、当日は朝早くから、近隣の方や遠方からの相談者の方も訪れました。受付、接待係、各係の担当者は、対応に追われ大変忙しい一日でした。

私は家族会の会員ですが、病院の先生とは、限られた時間内で相談したい事も十分出来ません。今回は、精神保健福祉士の方に相談し、良い情報も教えて頂いて大変参考になりました。

今回の家族相談会をきっかけに、館林家族会「たけのこ会」に見学に来て頂ければ幸いです。
(館林家族会 たけのこ会 大山しづ江)

2月16日 IN 富岡保健所

こころの健康センター所長の浅見隆康先生を始め、地元の先生方に協力を依頼。また広報や当日の設営には地元保健所の協力で実施しました。富岡もみじ会には、来所者の対応等で、お世話になりました。

相談会の現状の課題として、事務局があるので予約制にする。相談の流れをスムーズにする工夫。そして、大切なのは単会の家族会への勧誘を意識することが上げられました。

「日本統合失調症学会」

～脳と仲間と人生～

春には日の浅い3月25・26日、ベシア文化ホールで、学会が開催されました。

群馬大学の福田正人先生が会長で、全国からの会員に交じり、家族も対象とあり、病気の回復を願い参加した家族会の会員の方々がありました。

家族の長いつらい戦いを、どの程度理解してもらえているのか。専門職の方々の病気や薬の研究発表、支援者や家族の話と盛りだくさんで、統合失調症のシャワーを浴びたようでした。

病気の部分だけ見ずに、人との関わり、信頼関係の中で生きる力を身に付けること。物の見方を変えると学びました。

(吉邑)

活動へのご賛同、 ご協力に感謝します。

賛助会員 (敬称略)

	氏名	地域
団体	上ノ原病院	渋川
	厩橋病院	前橋
	柴田メンタルクリニック (たてばやし診療クリニックと共同)	沼田
	上毛病院	前橋
	西毛病院	富岡
	武田メンタルクリニック	沼田
	田中病院	渋川
	つつじメンタルホスピタル	館林
	利根中央病院	沼田
	特定非営利活動法人 ぼれぼれ	渋川
わくわくミサト	高崎	
個人	浅見 隆康	
	長谷川憲一	
	伊勢田 堯	
	武田 滋利	
	野沢 昌枝	
	松本 勝代	

<平成 27 年度年間事業報告>

27年 5月27日	第 29 回定期総会
6月25・26日	全福連定期総会
9月17日	作業所・家族会合同研修会 「当事者の社会復帰と家族支援」
9月28・29日	全福連全国大会 (福岡)
10月 5日	県つつじ会臨時総会 県への要望書提出
10月16日	全福連関東ブロック大会 IN 東京
10月22日	家族相談会 (館林)
28年 1月29日	研修会-当事者との関わり方に学ぶ- 「ピアの研修の内容とその成果」 「相手の気持ちを理解するために」
2月16日	家族相談会 (富岡)

◎「JR の精神障害者交通運賃の請願届」の署名へのご協力ありがとうございました。

——— < 編集後記 > ———

皆様のご協力により「つつじ会だより第 26 号」を発刊することが出来ました。

今回から 1 年分の記事を掲載するため発刊が 3 月 31 日となりました。

(編集委員 岡部)